

# 令和5年度 長門市立深川小学校研究概要

## 1 本年度の研修主題について

ビフォー・アフターを表現できる子どもの育成  
～ 学ぶ意欲が高まる授業づくりをめざして ～

## 2 主題設定の理由

新学習指導要領には、学校で学んだことが、子どもたちの「生きる力」となり、社会がどんなに変化して予想困難な時代になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動することで、それぞれに思い描く幸せを実現し、明るい未来を創ることができるようにという願いが込められている。そのために、「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有しながら、子どもたちが「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」という「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が求められる。子どもたちが見通しをもって、「粘り強く取り組む力」や、自分の学びを振り返り、「次の学びを社会生活に活かす力」を育むために、子どもたちが仲間や自己と対話しながら、一つひとつの知識がつながり「わかった。」「おもしろい。」と思える授業づくりが私たち教職員の課題であろう。

本校は、昨年度までの4年間、「対話的な学びを通して、自らの学びを自覚し、表現できる子どもの育成」を研究主題として研修を進めており、昨年度は、児童一人ひとりが「深い学び」を実現できるよう、①ねらいに迫るための「対話的な学び」、②自己の学びを見つめ直す「振り返り」の二つに焦点を当てて取り組んできた。その成果として、授業の中で自分の考えをしっかりと伝えようとする児童が増えてきた。また、効果的な問い返しや授業半ばでの振り返りを行うことにより、子どもたちが少し立ち止まって考え直す姿や、友だちの考えを自分の考えと比較しながら考え直す姿が見られ、対話の資質向上が感じられるようにもなった。振り返りにおいても、自己の変容に気付くものや、友だちと考えを共有し、練り直すことの面白さに触れるものも見られるようになった。しかし、その反面で、設定された対話はできているが、もう一步踏み出して自ら新たな課題を見出して疑問を投げかけることや自己の学びを具体的に表現することについては、まだ課題が残る。

今年度は、深川小スタイルを活用した学力向上につながるよう、新たな研究主題を設定して授業づくりに立ち戻った研修を行っていく。これは、若手が増えてくる中で、確かな授業力が求められる今だからこそ必要な研修だと考える。授業は一方的に行うものではなく、子ども同士の対話や子どもと教師の対話を通して探究し、考えを広げ、深めながら進めていくものである。そのためにも、子どもたちが考え、話したくなるような発問が大切となるのではないだろうか。また、ICTが発達し、学習に多く取り入れられるようになったからこそ、板書についても再度見つめ直し、経験ある先生方から学ぶよい機会となるであろう。経験年数に関わらず、子どもたち一人ひとりが充実した学びをし、確かな力を付けることができるように、全教職員で教材と向き合い、子どもたちの意欲が高まるような授業づくりを実現していきたい。

## 3 研究仮説

学習意欲につながるような発問の工夫や学習展開をすることで、子どもたちは主体的に課題と向き合い、自己の変容や成長を自覚して表現することができるであろう。

#### 4 めざす子どもの姿

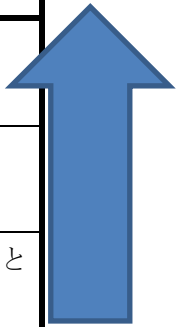
★ 低学年チーム
自分の思いをもち、自分なりの方法で表現できる子ども
★ 中学年チーム
わかる・できる・やってみたいという学習意欲を自らもてる子ども
★ 高学年チーム
自分の学習を調整し、追究する子ども
★ 特別支援チーム
興味・関心をもち、見通しをもって学習に取り組む子ども

#### 5 研究の視点

- |   |  |
|---|--|
| <p>(1) <u>学ぶ意欲が高まる問い・学習単元づくり</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入の工夫（課題提示やタイミング）</li> <li>・必要感・必然性のある問い</li> <li>・実態に合った学習内容</li> <li>・教材の特性把握</li> </ul> | <p>(2) <u>子ども自身が自己を振り返り、表現するための工夫</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学びが見える板書</li> <li>・振り返りに向かう視点</li> </ul> |
|---|--|

【授業デザイン】長門市が大切にしたい授業づくり5つのポイント

学 習 過 程	
<b>終 末</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の学びを捉え直し、自覚する「振り返り」</li> <li>○ 学んだことを理解・確認する「まとめ」</li> </ul>
<b>展 開</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 考えが広がり、深まる「学び合い」</li> <li>○ 自分の考えをもち、言語化する「一人学び」</li> </ul>
<b>導 入</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子どもの問いや思いを大切にしたい、学びたくなる「めあて」と課題解決に向けた「見通し」</li> </ul>
<b>学習規律</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 落ち着いた学習環境（確実な授業準備，1分前着席）</li> <li>○ 支持的風土の形成（学級経営，フリートーク）</li> </ul>



#### 6 研究の方法

(1) 公開授業（教科の指定はない）

- 指導者を招聘する全校授業・・・4回（低学年・中学年・高学年・特別支援） ※総案作成
- 一人一授業（全員実施）・・・時期が重ならないように、事前に研究推進委員で調整して実施。所属チームメンバーは必ず、他はできる範囲で参観し、放課後ミニ研修を行う。専科教員・特別支援学級担任の授業は、学級担任や交流担任も参観する。

※本時案作成（3年目までは総案作成）

- ユニット研修・・・年間3回（低学年・中学年・高学年）  
全校授業をしない学年が一授業として実施。外部からの参観有り。

※本時案作成

(2) 学年・チーム間による教材研究・授業研究や教職員全体でのふらっと参観

## 7 研修計画

月	日	研修内容
4月	12日(水)	第1回校内研修会 ◎本年度の研修内容について提案 ・昨年度の成果と課題 ・研修内容について協議 ・研究の方法について
4月	19日(水)	第2回校内研修会 ◎全国学力学習状況調査・山口県学力定着状況確認問題の採点と考察
5月	17日(水)	第3回校内研修会 ◎授業づくりの方向性をそろえる ・研究主題, 研究内容, 研究の進め方について提案 ・全校授業者の決定 ・めざす子どもの姿 ☆外国語ミニ研修
6月	14日(水)	第4回校内研修会 ◎授業の具体の研修を深める ・( 高学年 ) チーム指導案検討 ・めざす授業観の共有(教材を使つての授業づくり) ☆外国語ミニ研修
7月	12日(水)	第5回校内研修会 <u>校内授業研究</u> 授業者(小田 浩斗 教諭) 教科【算 数】
8月	23日(水)	第6回校内研修会 ◎授業の具体の研修を深める ・( 特別支援 ) チーム指導案検討, 他研修 ☆外国語ミニ研修
9月	20日(水)	第7回校内研修会 <u>校内授業研究</u> 授業者(河村文美子教諭・山村千恵教諭・重原幸子教諭) 教科【国 語】
10月	18日(水)	第8回校内研修会 ◎授業の具体の研修を深める ・( 低学年 ) チーム指導案検討, 他研修 ☆外国語ミニ研修
11月	22日(水)	第9回校内研修会 <u>校内授業研究</u> 授業者(太田 貴之 教諭) 教科【国 語】
11月	29日(水)	第10回校内研修会 ◎授業の具体の研修を深める ・( 中学年 ) チーム指導案検討, 他研修 ☆外国語ミニ研修
1月	31日(水)	第11回校内研修会 <u>校内授業研究</u> 授業者(山本 陽子 教諭) 教科【道 徳】
2月	7日(水)	第12回校内研修会 ◎研究のまとめ ・研究紀要作成について ・成果と課題の整理 ☆外国語ミニ研修

## 8 本年度の成果と課題について

### (1) 成果

#### ① 学ぶ意欲が高まる問い・学習単元づくり

- 振り返りを生かしたり、導入時の子どもの意識の流れを問いにつなげたりすることで、意欲的に学ぶ姿が見られた。タブレットなどを使用し、全体に共有できるようにすることで、問いを理解しやすく、一人ひとりが考えようとする姿も見られた。
- 「どちらが〇〇?」「どれが一番?」など、子どもたちに疑問形で問うことにより、自分事としてとらえ、考えとともに理由を伝えたいという意欲の高まりを感じた。
- 教材研究を通して、子どもたちが興味をもてるような課題提示の工夫をすることで、学習意欲を自らもてるようになってきた。理科などは、実験に興味をもつ子どもが多く、教材自体が学習意欲に結び付いていた。そのため、「予想」「実験」「結果」「わかったこと」という基本の流れをつかませることもできた。
- 低学年では、単元のゴールを最初にもたせることで、やってみたいという気持ちをもって学習に取り組めた。
- 中学年では、学習単元づくりを学年で考えることで、多様なアプローチの仕方での授業に取り組むことができ、子どもたちの学習意欲へもつながった。
- 高学年では、学習内容のつながりを意識し、既習事項が次へつながることを実感できる授業を行うことで、自ら課題をもち、解決しようとする姿が見られるようになった。

#### ② 子ども自身が自己を振り返り、表現するための工夫

- 振り返りに視点をもたせることで自己の学びや課題を書けるようになってきた。また、よい振り返りを紹介しながら、どの部分がよいのか補足説明することで、意識して書こうという姿勢につながっている。特に低学年では、書く前に発表したり、ペアで話したりすることで、振り返りを自分の言葉で表現できる子どもが増えた。

### (2) 課題

学ぶ意欲が高まる授業づくりをめざして、教材研究や単元づくりを行ってきたことで、子どもたちが学びたい必要感のある問いを工夫することができ、問いに対して意欲的に考える子どもは増えてきた。振り返りも、視点をもたせたり、書き方を提示したりすることで書けるようになってきた。しかし、子どもたち自身が自己の変容を意識するまでには至っていない。その原因として、問いを考えることはするが、その思いや考えを表現する（伝える）力がまだ十分ではないように感じている。思いや考えを表現することで、より深い学びへとつながり、自己の変容を自覚することができるであろう。自己の変容を自覚することで、粘り強く考える力や学びを次へつなげる力が育つ。自己の変容を自覚するためにも、来年度は自分の思いや考えを表現していくことに視点を当てて研修していきたい。



7月13日 5年算数



9月20日特別支援



11月29日2年国語



1月31日 4年道徳